研究会報告

オゾン研究連絡会からの報告

オゾン研究連絡会事務局

本年5月26日，気象学会春季大会第1日目午後6時より高層気象台において第7回オゾン研究会を行ないました．今回は気象庁オゾン層解析室の迫田氏に最近のオゾン層のトレンドなどについてデータ解析結果をお話しいただきました．事前の連絡が十分でなかったにもかかわらず，多数の方に参加していただき有難うございました．お世話いただきました高層気象台の皆様に厚くお礼申し上げます．

迫田氏の発表についての討論の後，今後のオゾン研究連絡会の運営に関わるいくつかの議論が行なわれました．IOC（国際オゾン委員会）委員に対して，4年後に国際オゾンシンポジウムを日本に誘致する提案をするべきかどうかについて出席者の意見交換がおこなわれました．そろそろ日本でという機運はある，それだけの条件も整っているという前向きの意見と，COSPER の会議が1996年に予定されており，寄付集めが難しいという現実的な問題が指摘されました．この件についてのその後の経緯については後述します．また，世話人からそろそろ交代をという発言もありました．とりあえず，9月から1年間滞米する林田にかわって，筑波技術短期大学の渡辺助教授の研究室が連絡事務などを引き継いでくださることが決まりました．事務局の交代時期については当事者でさらに議論することになりました．

以下にその後の経緯についてお知らせします．

（1）国際オゾンシンポジウム誘致の件

非常に重大で慎重を期すべき問題でもあり，結局，国際オゾンシンポジウム（6月4～17日）に開かれたIOC委員会席上では立候補を見合わせたとのことです．現在中国が立候補していますが，イタリアも有力候補とのことで事態はまだ流動的のようです．やはり4年後では準備期間も短く，他の国際会議も前後して開かれるので，現実的に考えると困難が多いのではないかという IOC 委員の判断で立候補しなかったとのことです．連絡会事務局では，8年後にどうするかということを今から十分議論してゆくつもりです．

（2）研究連絡会事務局について

オゾン研究連絡会は，現在の事務局世話人がオゾン研究会として自発的に結成を呼びかけたもので，世話人の選出にあたっての規定は特にありません．世話人の間で意見交換した結果，当面は結成時の通りやってゆくことになりました．組織がある程度かたまった段階では，何らかの手続きをとって次期世話人に引き継ぐことが考えられます．

また，研究会の持ち方については，研究会のお知らせをもっと早く行なう，学会からの補助金を活用する，事務局と他の世話人の間の連絡を密にするなどを心掛けて継続してゆくことにしました．当面の活動は，研究会をできる限り開催すること，IOC などの国際機関からの情報を広く伝えること，オゾン関連研究に関する情報交換の機会を提供するなどで，無理をしない範囲で息長く継続することを目標としています．事務局に対する不満やご意見やがあれば，聞かせていただきたいと思っております．

（林田佐智子）